



共に創る「協働」を。 自ら考え動ける現場を創る 実務家チーム。

自分たちで考え、動ける現場を共に創る、管理部門の協働者として

DOERS Company Deck

DOERS株式会社

何から手をつけるべきか見えない、 リソースが足りない、現場のカオス。

全社戦略は決まった。
だが、それを現場の実務に翻訳し、推進できる
PM、リーダー、メンバーが組織にはいない…

立派な戦略(地図)はある。
しかし、それを実務へ落とし込むPM、リーダー層
や専門知を持つ実務家(ピース)が既存の組織に
は不在。

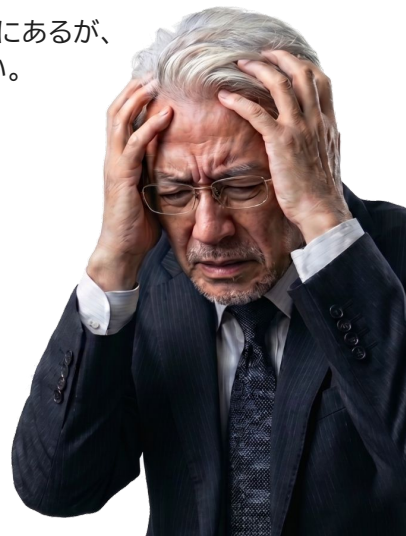
正論だけが積み上がり、現場は日々の定型業で
身動きが取れない。

IPOや数十億の調達を目指しているのに、
社内の管理体制が追いついていない。
どこから手をつければいいのかさえ分らない…

IPO準備や大型調達という目的が目の前にあるが、
足元には仕組みもリソースも足りていない。

1人の責任者が孤独にすべてを背負い、
限界を迎えている。

これ誰がやるの？



我々は「教える」コンサルタントではない。 共に「考え、実行する」協働者である。

実務的な知見から、
進むべき「最適なルート」を共に考える。

共に「実行」し、実務を進める。
自走まで協働する。



悩みの 言語化

漠然としたカオスから
本質的な課題を特定。

実務への 落とし込み

戦略を
現場がすぐ動ける
実務へ翻訳。

実行 (形にする)

共に手を動かし実務を進める。
自走できる仕組みを創る。



全階層の実務家チームが不足を即座に補完。 業務代行コストでなく、自走・内製化への組織投資。

DOERSは管理部門全般* において、実務経験者と土業による「PM・リーダー・メンバー」の最適ユニットを協働実行者として提供。説明コスト最小限で不足する「ピース」を埋め、単なる業務代行にとどまらない、貴社の内製化・自走へ向けた確かな組織投資を実現します。*経理、財務、法務、労務、情シス、人事、デザイン等の領域

DOERSの「実務家チーム」が選ばれる3つの理由

1

説明コスト最小。
現場を動かす
実務家集団。

事業会社での実務経験が豊富で、現場の勘所を熟知しています。

説明コストを最小限に抑え、現在のフェーズやリソースに合わせた現実的な解決策を協働で実行します。

2

チームの総力で
管理部門の全領域を
面展開。

経理・人事・法務・ITなど、密接に連動する全領域をカバーします。

背後には土業を含むプロが常時接続しており、部分最適に陥ることなく、チーム全体の知見を面で連動させてカオスな課題を最短突破します。

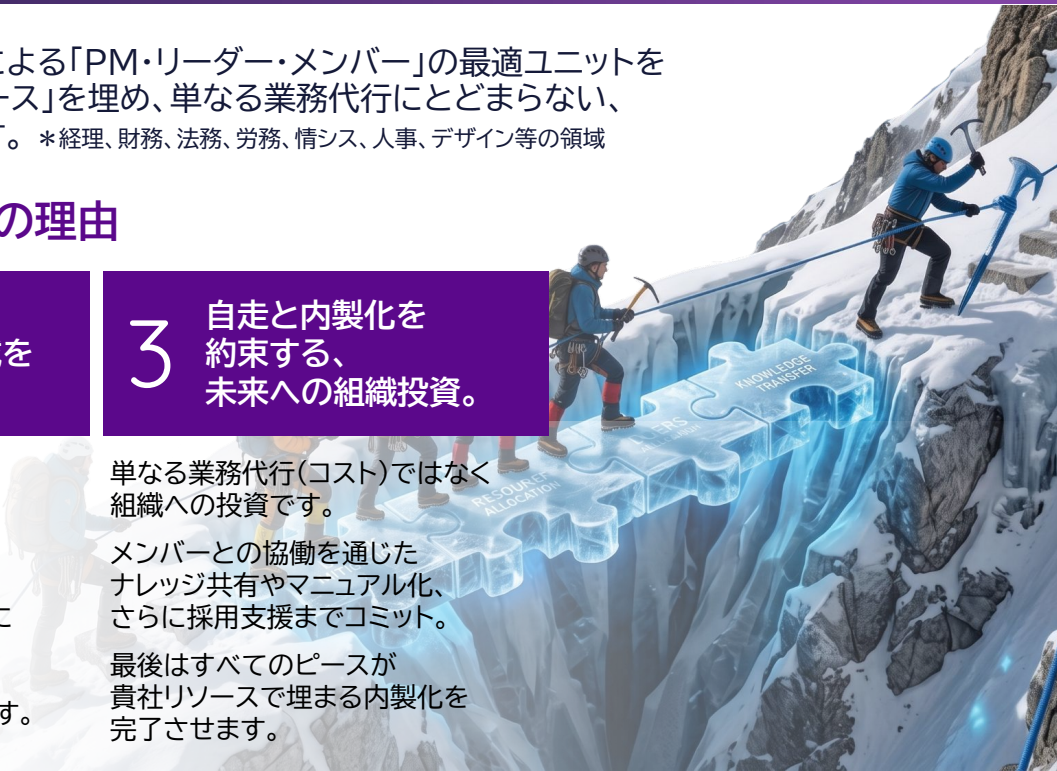
3

自走と内製化を
約束する、
未来への組織投資。

単なる業務代行(コスト)ではなく組織への投資です。

メンバーとの協働を通じたナレッジ共有やマニュアル化、さらに採用支援までコミット。

最後はすべてのピースが貴社リソースで埋まる内製化を完了させます。



説明コスト最小。現場を動かす実務家チーム。

現場の修羅場と痛みを熟知しているから、文脈を瞬時に理解し即座に機能する。

自らが事業会社の管理部門で泥臭い実務に奔走し、あらゆるカオスと修羅場に直面してきました。
だからこそ、机上の空論ではない「生きた解決策」を共に実行することができます。

実務経験者だからこそできる強み

圧倒的に低い 説明コスト

現場特有の複雑な文脈や痛みを
「肌感覚」で理解しているため、
一から説明いただく必要は
ありません。

最短距離で課題の核心に
迫ります。

正論ではなく 実行可能性を重視

「どうすべきか」だけでなく、
「現状を踏まえた現実的な最適解」を
設計、実行します。

変革は理想的な計画ではなく、
現場での1つ1つの改善を
積み重ねた結果でしか
成しえないからです。

現場の痛みに 寄り添う協働

新しい仕組みを導入する際の、
現場のハレーションや抵抗感も
熟知しています。

各部門やメンバーの立場や正義に
配慮し、摩擦を最小限に抑えながら
変革を推進します。



チームの総力で管理部門の全領域を面展開。

経理・人事・法務の壁を壊し、部分最適に陥らない「組織全体の最適化」を最短で。

「これは経理の仕事」「それは法務の領域」——そんな部門間の壁が、経営基盤の構築を停滞させます。

DOERSは、貴社の窓口となるメンバーの背後に、事業会社経験者や各領域の士業(会計士・弁護士・社労士等)が常時接続。

一人の担当者のスキルに依存せず、チーム全体の知見を面で連動させることで、部分最適に陥ることなく、複雑に絡み合った課題を最短突破します。



自走と内製化を約束する、未来への組織投資。

ノウハウを組織に残し、現場の自走を支える。一步引いた先まで見据えた実務支援。

単に業務を外出しする「消費的なコスト」ではなく、自社に仕組みと体制を残す「組織投資」へ。

DOERSの関わり方が「投資」である理由は、実務を引き受けて動かすだけでなく、貴社が自分たちで回せる「内製化の完了」まで徹底的に付き合うからです。

実務の仕組み化と内製化を形にする3つのアプローチ

1 現場を動かす 引き受けと実行

リソースや知見が不足している領域の実務を、DOERSがそのまま引き受けます。

まずは現場を確実に動かし、滞りを解消します。

2 仕組みを残す マニュアル化・トランスファー

日々の実務を通じて現場のノウハウをオープンにし、誰もが再現できるマニュアルへと昇華。

貴社の組織内に確かなナレッジをトランスファー(移行)します。

3 定着まで付き合う 内製化への落とし込み

仕組みを作るだけでなく、不足ポジションの採用支援やメンバーへの引継ぎまで実施。

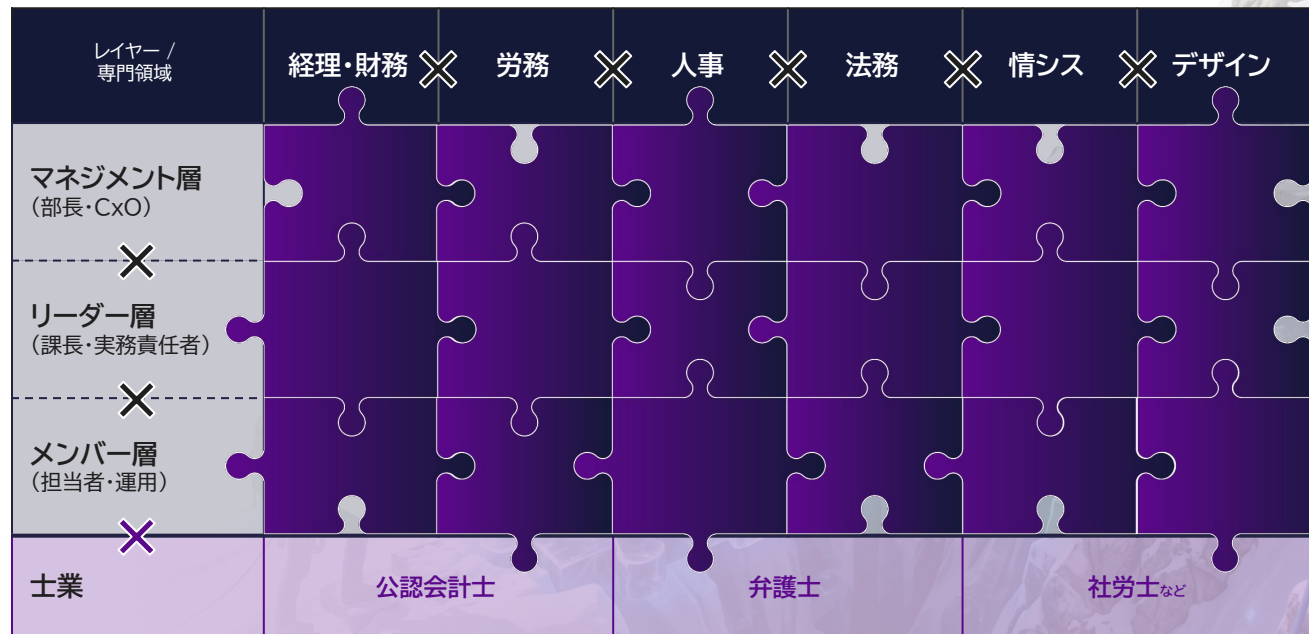
貴社メンバーだけで実務を完全に回せる状態になるまで、徹底的に現場に付き合います。



全領域の実務家と士業ネットワークが織りなす、 強固な支援体制。

- マネジメントからメンバーまでの3つの階層
- あらゆる専門領域の実務家
- そして背後に控える士業のネットワーク

これらがワンチームで
常時接続していることこそが、
DOERSの強固な体制であり、
信頼の裏付けです。

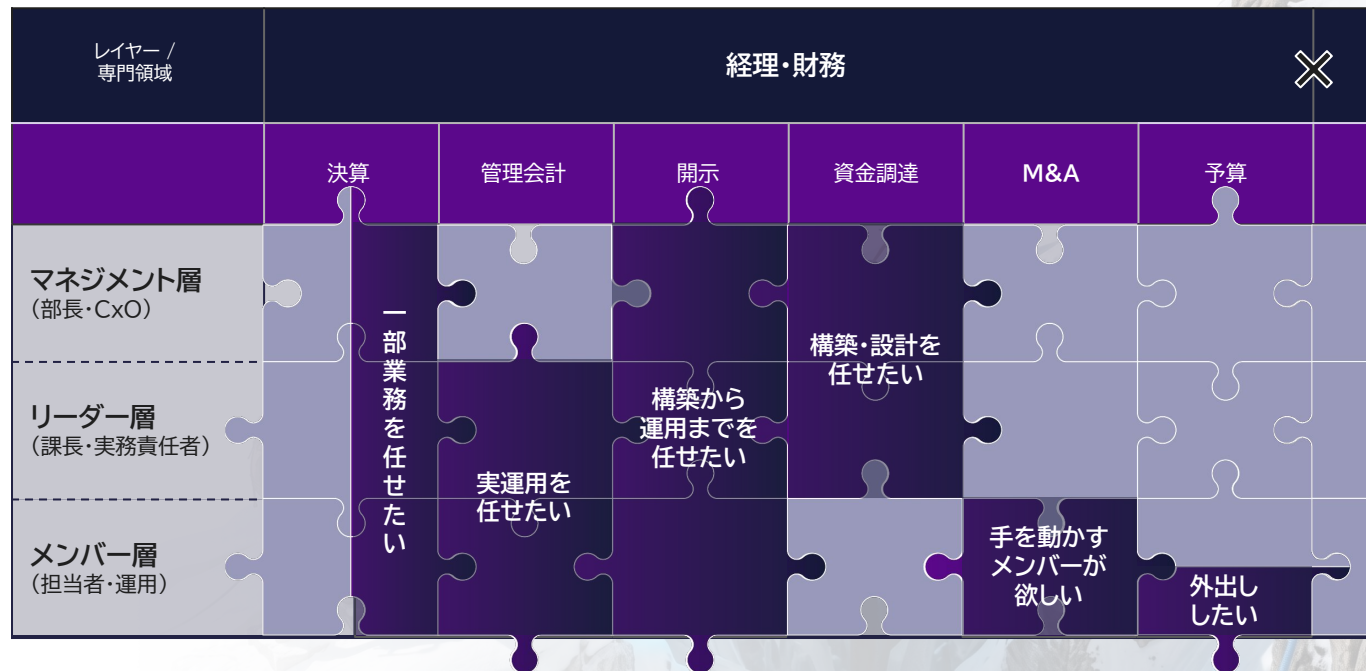


組織の「空白」の形に合わせて、 柔軟に適合する5つのアプローチ。

状況、予算、課題
の形に合わせて
柔軟にはまり込む。

「ここだけ手伝ってほしい」
「まるごと引き受けてほしい」
——そんな貴社のリアルなニーズ
に合わせて、DOERSはパズルの
ように柔軟に形を変えて
機能します。

現状の組織に最適化する、
5つのアプローチパターンです。

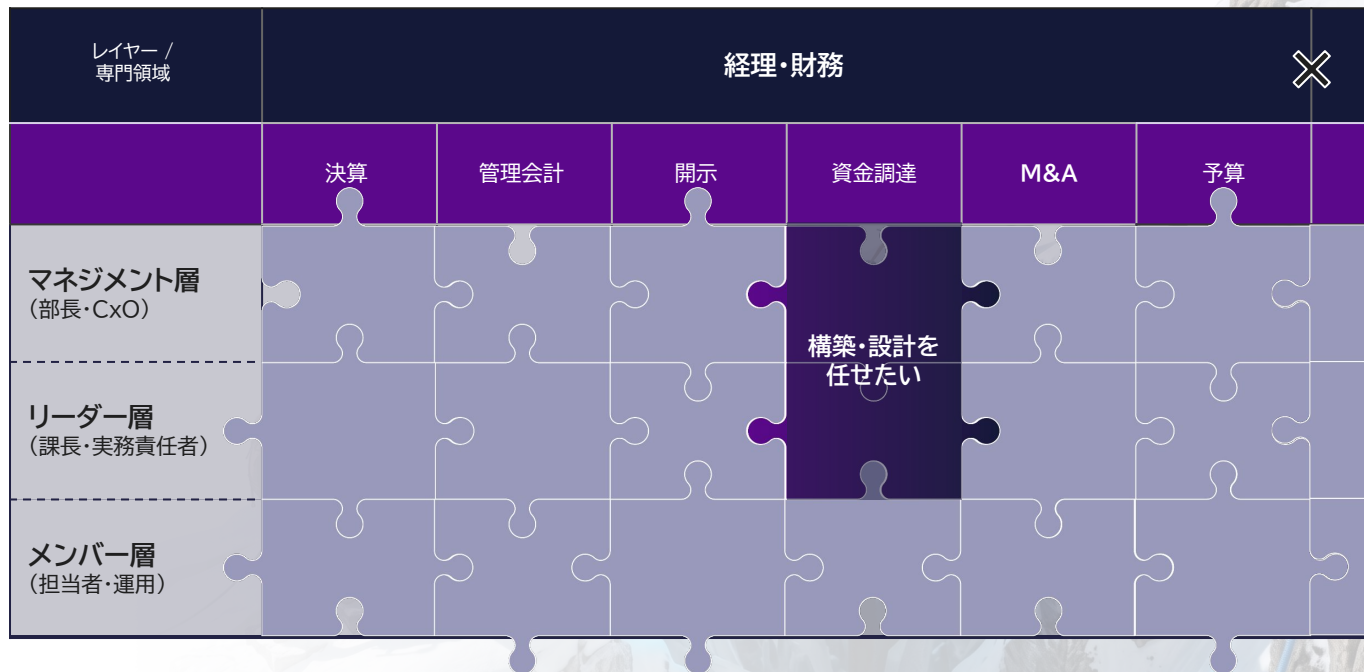


Approach 1: 「構築・設計」を任せたい

上位レイヤー中心の 戦略実装

資金調達、IPO準備や、
新規プロジェクトの立ち上げなど、
高度な知見と設計力が必要な
場面にマネジメント層・リーダー層
を重点投入します。

- 管理体制のグランドデザイン策定
- 業務フロー・規程の新規構築
- 専門判断を伴う
重要マイルストーンの突破



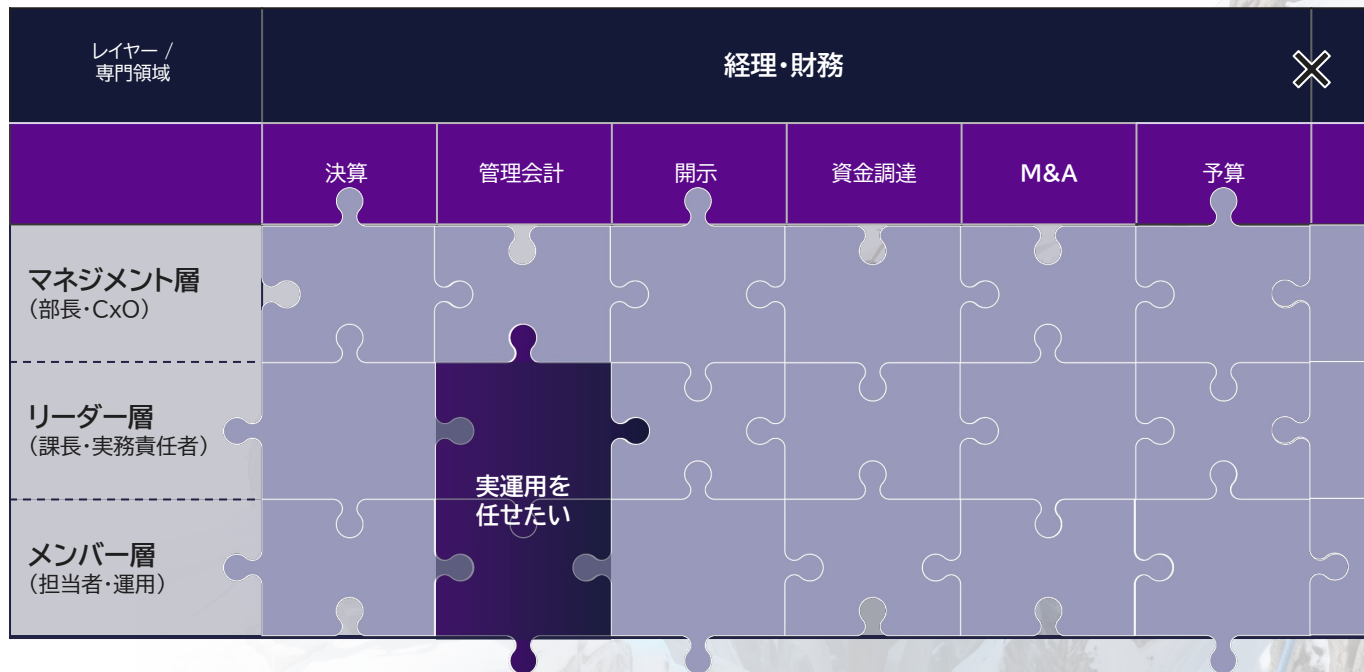
Approach 2: 「実運用リード」を任せたい

現場を駆動させる エンジンを提供

仕組みはあるが、自走するための
推進力が足りない組織へ。

リーダー層・メンバー層が
入り込み、実務を回しながら
現場を推進します。

- 既存フローのボトルネック解消
- 現場メンバーとの協働による
実働推進
- 定例業務の安定稼働と
クオリティ担保

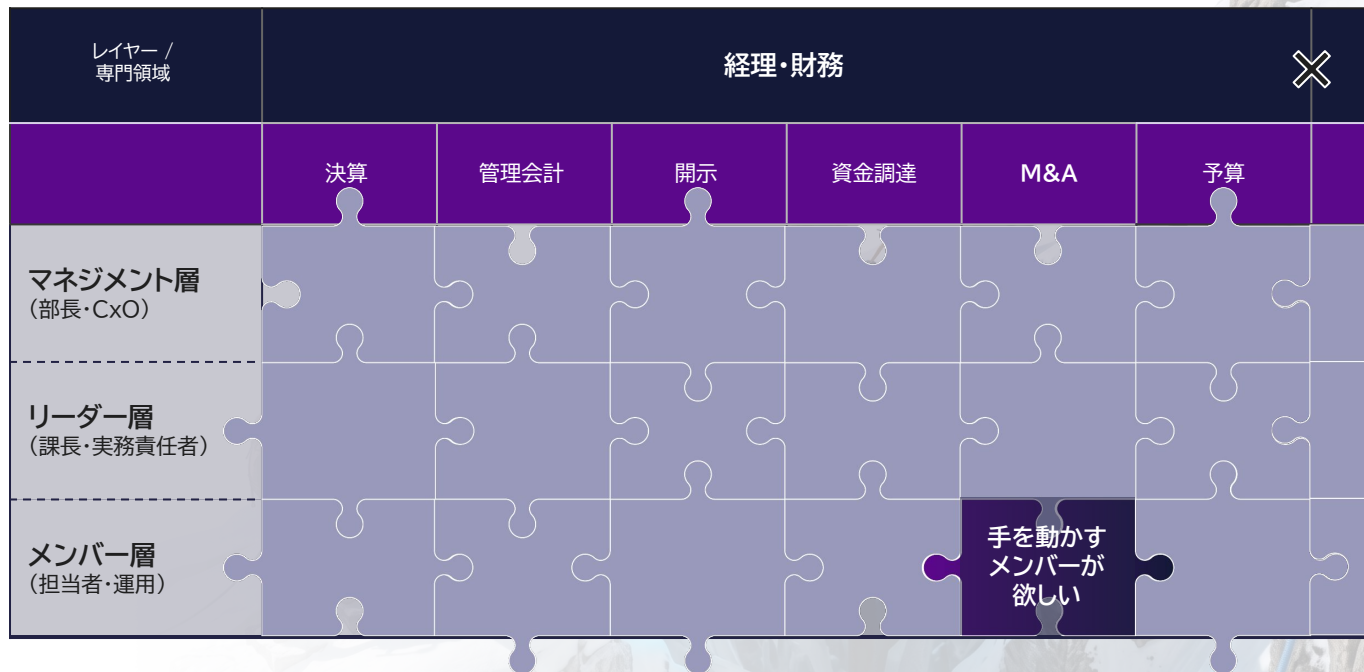


Approach 3: 「リソース」を補充したい

ピンポイントな欠落を 即座に補完

「この領域だけ手が回らない」
「一時的に手数が欲しい」
といった、組織図上の特定の穴を、
必要な期間・厚みでピンポイントに
埋めます。

- PJ(システム導入等)や繁忙期等のスポット増員(採用により当該期間経過後の組織の肥大化を回避)
- 退職に伴う代替リソース

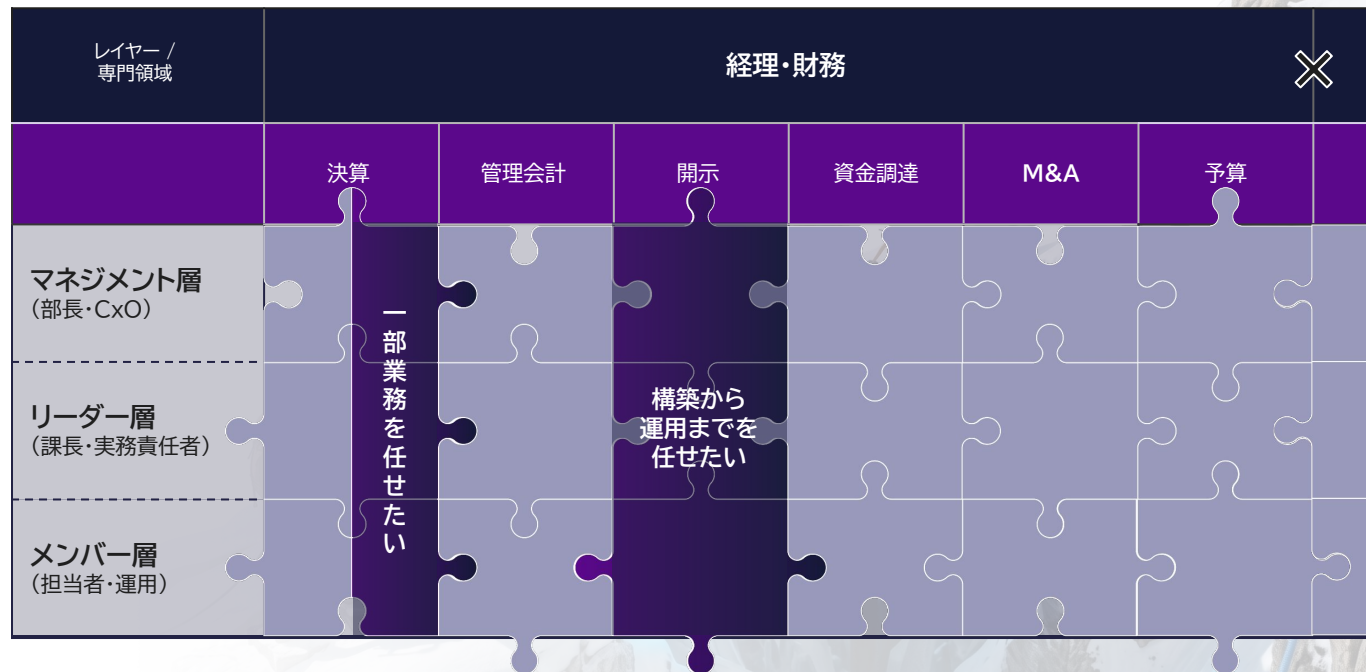


Approach 5: 「まるごと」任せたい

全階層を縦に貫通する 「外部管理部門」の インストール

マネジメントから実務まで
全領域をDOERSのユニットが
引き受けます。

貴社は窓口となるPMOとの
コミュニケーションのみで、
管理部門全体が自走し始め、
最短最速で組織基盤が完成します。



現場の「カオス」をどう突破するか。 有機的連携の実行プロセス

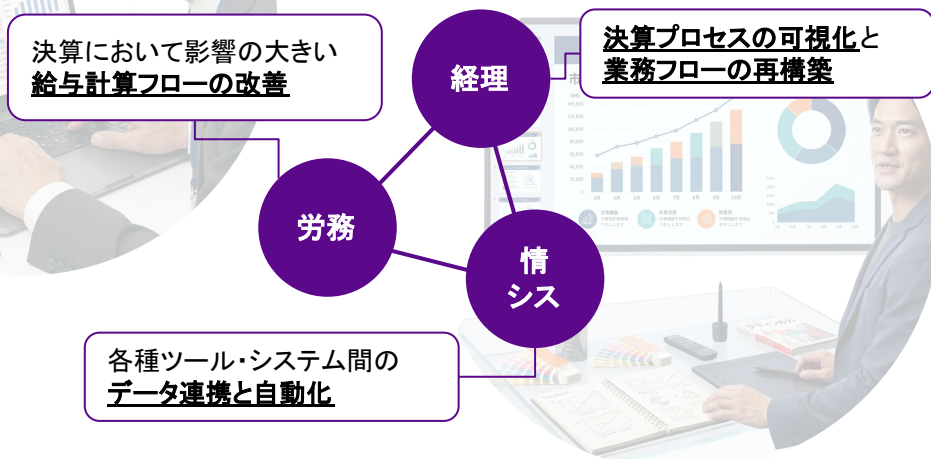
1. 資金調達(エクイティ・デット)の完遂

資金調達は経理、法務、デザイン等と複数の職能にまたがるPJで、その複数の専門領域を同時並行で実装します。



2. 決算早期化とバックオフィス基盤の再構築

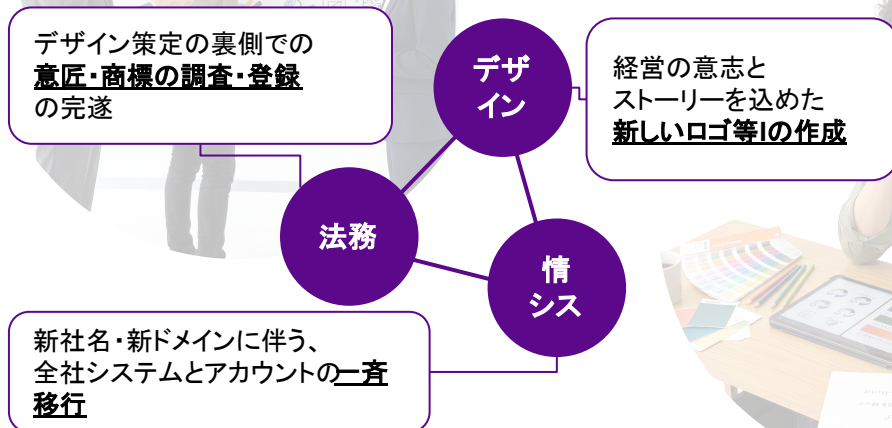
経理部門だけの局所的な改善では、抜本的な早期化は実現しません。ボトルネックとなる周辺領域まで踏み込みます。



現場の「カオス」をどう突破するか。 有機的連携の実行プロセス

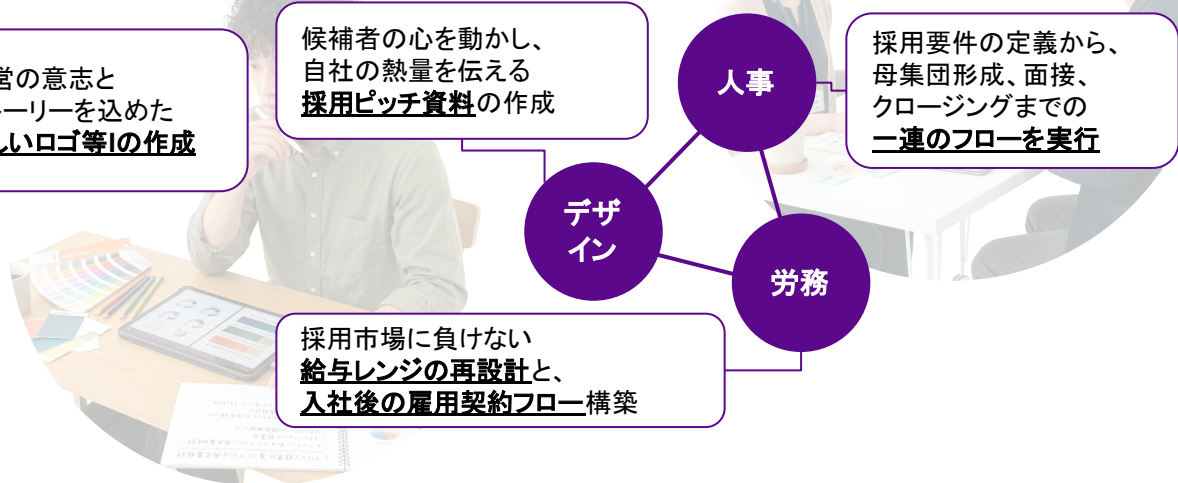
3.コーポレートブランディング(社名・ロゴ作成)

単に「美しいもの」を作るだけでは終わりません。
権利関係のクリアから、社内基盤の泥臭い移行までを
一気に完遂します。



4.採用の実行と組織拡大

「人を集める」だけで終わらず、候補者への魅力づけから
入社後の適切な受け入れ体制までを「面」でカバーします。



現場の「カオス」をどう突破するか。 有機的連携の実行プロセス

5.M&A Execution & PMI

調査から統合まで、途切れない「面」の支援

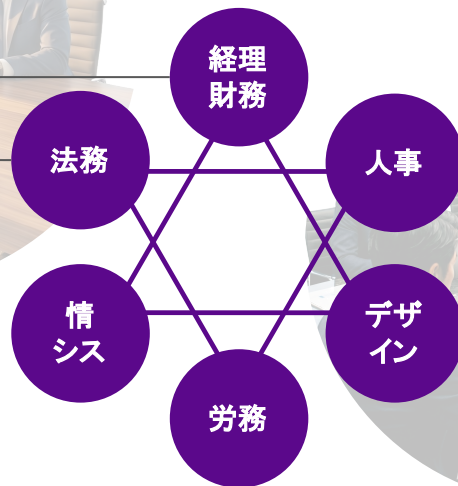
M&Aを成功させるのは、調査(DD)の精度と統合(PMI)の質とスピードです。DOERSは全領域をカバーします。

<調査>

各チームDDを実施

- ・事業計画の作成
- ・Valuation算定等

- ・スキーム設計
- ・契約書等作成
- ・会議体等手続き等



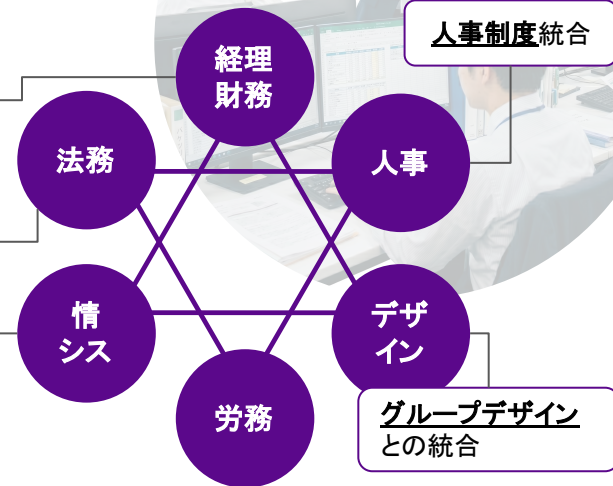
<統合>

各チームPMIを実行

- ・決算プロセスの統合
- ・連結決算

- ・規程類の統合
- ・ガバナンスの統合

- ・システム統合
- ・セキュリティ統合



現場の「カオス」をどう突破するか。 有機的連携の実行プロセス

6. 情報セキュリティと労務の同時構築

セキュリティ、ISMSの体制構築と規程整備等を推進。

情シス・法務・労務が面で連動し、
ガバナンス強化と労務リスクの最小化を両立します。



実務に徹するからこそ、報酬体系もフェアに。 管理コストを極小化する、最適チーム編成。

プロジェクト全体の不透明な「一式費用」を廃し、成果に直結する「実働」のみをご請求します。

難易度に応じた最適な階層レイヤー(PM/リーダー/メンバー)を柔軟に組み合わせることで、
確実な成果を、圧倒的に合理的なコストで実現します。

Value

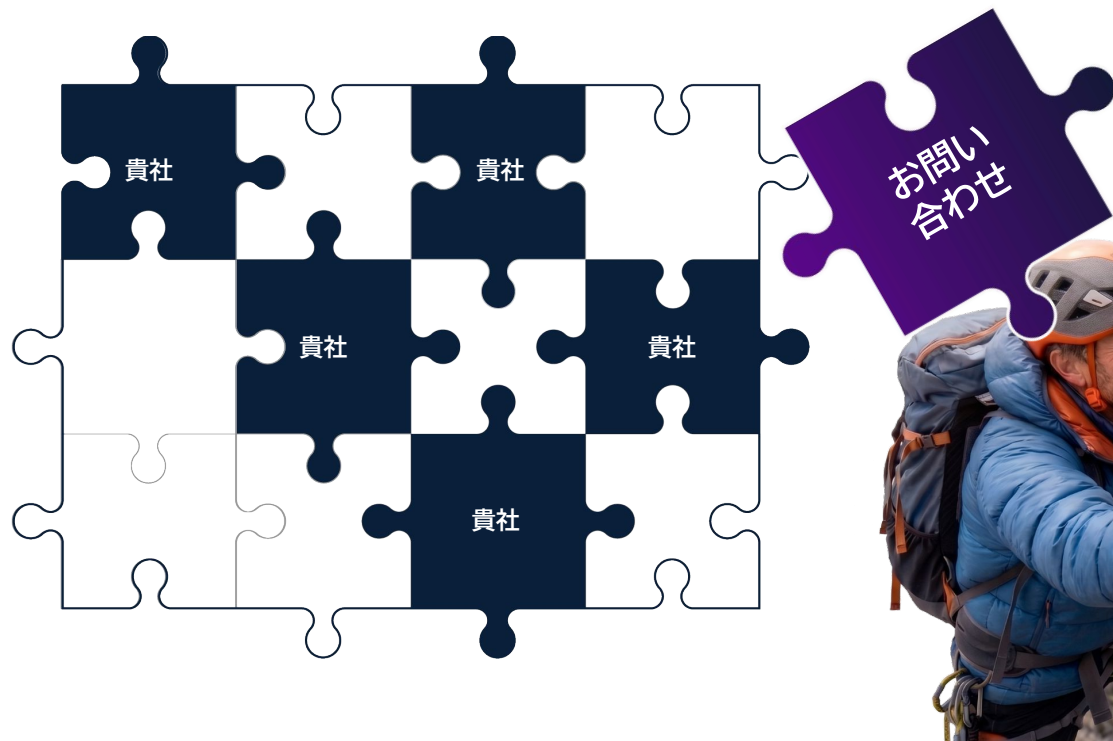


PM+リーダー+メンバー:同量の業務(例:構築～運用)のコスト最適化

PM+リーダー:同量の業務(例:構築～運用)のコスト中

PMのみ:同量の業務(例:構築～運用)のコスト高

あなたの組織に空いた「空白」を、
具体的な「実行力(チーム)」へ。

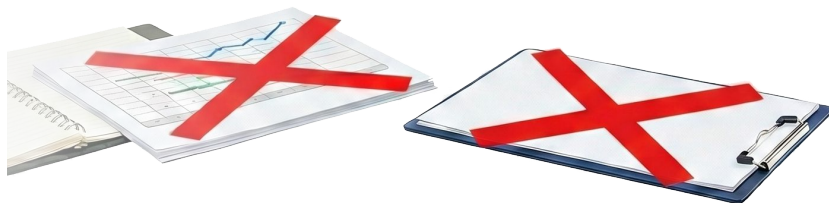


その「モヤモヤ」、 そのまま我々にぶつけてください。

綺麗に整理されたRFP(提案依頼書)は必要ありません。

「何から手をつければいいのか分からない」「とにかく人が足りない」。
その泥臭い現実を共に背負い、解決の道筋を描き、
共に汗をかいて完遂します。

私たちは、あなたの管理部門の伴走者です。



最も高い山を 一緒に登りましょう。

貴社が最も求めていることは
「登頂すること＝実務を進めること」だと考えています。
DOERSはその協働者です。
一緒に登頂の喜びを分かち合いましょう。

プロジェクトの成功は、ゴールではありません。貴社が自ら考え、動き、変革し続ける組織に生まれ変わることに。
それが、私たちの目指す「最も高い山」の頂です。

DOERSは、貴社がその頂に立つその時まで、実務家としての総力を挙げて協働します。
そして、貴社自身がリードする、次の新たな挑戦への扉を開きます。

DOERS株式会社

顧客の「痛みを共有する」共同実行者 代表取締役社長

Members



佐藤 新也 (Sato Shinya)
公認会計士

「正論」を押し付けない。自ら事業を創り、上場を牽引してきた経営者。

KPMG(監査法人)を経て、自らベンチャー企業(ゲーム会社等)を複数設立・経営。単なる外部のアドバイザーではなく「当事者として事業を創り、資金を投資し、組織を動かす」という経営者のキャリアを歩む。

その後、IPO・M&A支援のプロフェッショナルとして数多の企業の成長を牽引し、米国上場企業(LogProstyle)の役員も歴任。

IPO関連書籍の執筆など、最前線の「実務」と「理論」の双方を知り尽くす。

「我々はコンサルタントではありません。クライアントの課題に対して『どうすべきか』と外から説教をするのではなく、『我々がどう動いて、この状況を解決するか』を約束する集団です。外部から正論を振りかざすのではなく、当事者として貴社の痛みを共有し、共に壁を乗り越える。貴社のカオスを、我々にそのままぶつけてください。」

事業会社管理部門 × 会計士 代表取締役CEO

Members



橋本 健郎 (Hashimoto Takeo)

公認会計士

「監査法人」、「大企業の実務」、「ベンチャーのカオス」を経験した管理部門の実務家

PwC Japan(監査法人)にて上場・未上場企業、外資系企業と様々な企業の仕組みを学び、ENEOS(経理部・税務部)で当事者として大手上場企業の経理、税務の実務を経験。

その後、GA technologies(上場企業CAO)やGaudiy(未上場企業コーポレート代表)といった急成長スタートアップに参画し、管理部門全般の構築、整備、運用を実行、会社の成長に貢献。

「何もない未整備なカオス」から、IPOや数十億～数百億の資金調達に耐えうる「強固なコーポレート基盤」へと組織を構築、様々な規模・フェーズの会社を経験し、自らの手で切り拓いてきた実務家。

「実務の変革を最も推進できるのは実務家＝実務経験者であると思っています。

我々実務家のwillでありプライドは実務を進める＝実行で、それにこそ最も価値があると考えています。

実務の変革はドラスティックなものではなく、1つ1つの業務改善の積み上げでしか成しえなく、その結果こそが変革であると思います。

我々DOERSは実務家チームであり、その業務改善を実際に実行することができるため、その結果として実務に変革をもたらします。」

Company Profile

会社概要

Company Profile

会社名 DOERS株式会社 (DOERS Inc.)

設立 2026年1月

代表者 代表取締役社長 佐藤 新也
代表取締役CEO 橋本 健郎

所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座1-12-4 N&E BLD.7階

事業内容

コーポレート領域における実行支援・構築の協働

- ・経理・財務（決算、事業計画、予算、資金管理）
- ・法務（契約実務、コンプライアンス体制構築）
- ・コーポレートデザイン（IR資料、ピッチブック、採用広報）

- ・人事・労務（採用、評価制度、給与計算、労務管理）
- ・情シス（セキュリティ、システム導入、データ統合）
- ・その他（M&A、資金調達、IPO支援等） 等